

舊典  
類纂

皇位繼承篇

卷三卷四

二

和装本

76

4610

2



門 76  
4610  
卷 2

皇位繼承篇卷三



皇子

皇子ノ直ニ皇位ヲ繼承セシ事

皇子ノ皇位ヲ繼承スルハ先皇太子ニ立チテ而

シテ後寶位ニ即ク是ヲ常典ト為ス皇太子ニ立

タズシテ皇位ヲ繼承スルハ恒典ニ非ズ必事故

アルニ繇ル次下ニ舉ル所ノ書ヲ見テ以テ其ノ

概略ヲ知ルベシ○中世已後天皇ノ皇子ニ宜シ

者ハ皇子ト雖ドモ親王ト稱スル能ハズ此

ノ條ヤ皇子ト雖ドモ親王ト稱スル能ハズ此

宜シザル者ト兼テ立親王ト稱スル者ト稱

議官 福羽美静 檢閱

少書記官 横山由清

大書記生 黒川真頼

編纂

皇位繼承篇 卷之三

仁德天皇 允恭天皇 安康天皇 雄略天皇  
 顯宗天皇 宣化天皇 欽明天皇 崇峻天皇  
 孝德天皇 光孝天皇 後白河天皇 後嵯峨天皇  
 光明天皇 後光嚴天皇 後圓融天皇 稱光天皇  
 後土御門天皇 後柏原天皇 後奈良天皇 正親町天皇  
 後西院天皇 靈元天皇 今上

○仁德天皇

仁德天皇紀首 大鷦鷯天皇 ○仁德天皇 譽田天皇 ○應神天皇  
 第四子也 云 四十一年 ○應神天皇 春二月譽田天皇崩時  
 太子菟道稚郎子讓位于大鷦鷯尊未即帝位仍諮大鷦鷯尊夫  
 君天下以治萬民者蓋之如天容之如地 上有驩心以使百姓百  
 姓欣然天下安矣今我也弟之且文獻不足何敢繼嗣位登天業  
 乎大王 ○仁德天皇者風姿岐嶷仁孝遠聆以齒且長足為天下之

君其先帝立我為太子豈有能才乎唯愛之者也亦奉宗廟社稷  
 重事也僕之不佞不足以稱夫昆上而季下聖君而愚臣古今之  
 常典焉願王勿疑須即帝位我則為臣之助耳大鷦鷯尊對言先  
 皇 ○先代ノ天 謂皇位者一日之不可空故預選明德立王為貳  
 祚之以嗣授之以民崇其寵章令聞於國我雖不賢豈棄先帝  
 神天皇之命輒從弟王之願乎固辭不承各相讓 云 太子道  
 郎子ヲ 曰我知不可奪兄王之志豈久生之煩天下乎乃自死焉  
 云

○允恭天皇

元年春正月己卯大鷦鷯尊即天皇位  
 允恭天皇紀首 雄朝津間稚子宿禰天皇 ○允恭天皇 瑞齒別天  
 皇 ○反正天 同母弟也 云 五年春正月瑞齒別天皇崩爰群卿  
 議之曰方今大鷦鷯天皇之子雄朝津間稚子宿禰皇子與大草

香皇子然雄朝津間稚子宿禰皇子長之仁孝即選吉日跪上天  
皇之壘雄朝津間稚子宿禰皇子謝曰我不天久離篤疾不能步  
行且我既欲除病云雄朝津間稚子宿禰皇子曰奉宗廟社稷  
重事也寡人篤疾不足以稱猶辭而不聽云  
元年冬十有二月云皇子○允恭天曰群卿共為天下請寡人  
寡人何敢遂辭乃即帝位

○安康天皇

安康天皇紀條首四十二年○九恭天春正月天皇○九恭  
崩冬十月癸禮畢之是時太子○木梨輕行暴虐淫于婦女國  
人謗之群臣不從悉隸穴穗皇子○安爰太子欲襲穴穗皇  
子而密設兵穴穗皇子復興兵將戰云時太子知群臣不從百  
姓乖違乃出之匿物部大前宿禰之家穴穗皇子聞則圍之云  
由是太子自死于大前宿禰之家伊豫國十二月壬午穴穗皇子

即天皇位

○雄略天皇

雄略天皇紀條首大泊瀨幼武天皇○雄雄朝津間稚子宿  
禰天皇○允恭天第五子也云三年八月穴穗天皇○安  
意將沐浴幸于山宮遂登樓兮遊目因命酒兮肆宴爾乃情盤樂  
極閒以言談願謂皇后曰吾妹林妻為妹蓋汝雖親昵朕畏眉輪  
王眉輪王幼年遊戲樓下悉聞所談既而穴穗天皇枕皇后膝晝  
醉眠卧於是眉輪王伺其熟睡而刺殺之是日大舍人驟言於天  
皇○雄曰穴穗天皇為眉輪王見弑天皇大驚即猜兄等被  
甲帶刀率兵云坂合黑彥皇子深恐所疑竊語眉輪王遂共得  
間而出逃入圓大臣宅天皇使使乞之大臣以使報曰蓋聞人臣  
有事逃入王室未見君王隱匿臣舍方今坂合黑彥皇子與眉輪  
王深恃臣心來臣之舍誰忍送歟由是天皇復益興兵圍大臣宅

云 縱火燔宅於是大臣與黑彥皇子眉輪王俱被燔死 云  
一月甲子天皇命有司設壇於泊瀨朝倉即天皇位 云十

○顯宗天皇

顯宗天皇紀 條首 弘計天皇 更名來目稚子 大兄去來穗別天

皇 履仲天孫也 市邊押磐皇子子也 云 穴穗天皇 安康天

三年十月天皇父市邊押磐皇子及帳内佐伯部仲子於蚊屋野

為大泊瀨天皇 皇 雄略天 見殺因理同穴 於是天皇與億計王聞

父見射恐懼皆逃亡 云 白髮天皇 皇 清寧天 二年冬十一月 云

禁中仍使播磨國司來目部小楮持節將左右舍人至赤石奉迎

白髮天皇三年春正月天皇隨億計王到攝津國使臣連持節以

王青蓋車迎入宮中夏四月立億計王為皇太子立天皇為皇子

五年 〇清寧天皇 春正月白髮天皇崩是月皇太子億計王與天

皇讓位久而不處 云

元年春正月己巳朔大臣大連等奏言皇太子億計聖德明茂奉

讓天下陛下正統當奉鴻緒為郊廟主承續祖無窮之烈上當天

心下厭民望而不肯踐祚遂令金銀蕃國群僚遠近莫不失望天

命有屬皇太子推讓聖德彌盛福祚孔章在孺而勤謙恭慈順宜

奉兄命承統大業制曰可乃召公卿百僚於近飛鳥八鈞宮即天

皇位

○宣化天皇

宣化天皇紀 條首 武小廣國押盾天皇 皇 宣化天 男大迹天皇 〇

體天皇 第二子也 云 二年 〇安開天皇 十二月 勾大兄廣國押

武金日天皇 皇 安開天 崩無嗣群臣奏上 劔鏡於武小廣國押盾

尊使即天皇之位焉

○欽明天皇

皇位繼承篇 卷之三

欽明天皇紀首條天國排開廣庭天皇○欽明天皇男大迹天皇○

體天皇嫡子也云四年宣化天皇○冬十月武小廣國押盾天

皇○宣化天皇崩皇子天國排開廣庭天皇令群臣曰余幼年淺識

未開政事山田皇后○山田安閑天皇仁賢天皇皇后皇女明閑百揆

請就而決山田皇后怖謝曰妾蒙恩寵山海誰同萬機之難婦女

安預今皇子○欽明天者敬老慈少禮下賢者日中不食以待士

加以幼而穎脫早擅嘉聲性是寬和務存矜宥請諸臣等早令臨

登位光臨天下冬十二月甲申天國排開廣庭皇子即天皇位

○崇峻天皇崇峻天皇紀首條泊瀨部天皇○崇峻天皇天國排開廣庭天皇○

崇峻天皇○崇峻天皇紀首條泊瀨部天皇○崇峻天皇○崇峻天皇○

明天皇第十二子也云二年○用明年十月夏四月橘豐日天皇

皇○用明年崩五月物部大連○守屋大軍眾三度驚駭大連元欲

去餘皇子等而立穴穗部皇子○穴穗部皇子○天皇○及至

於今望因遊獵而謀替立密使人於穴穗部皇子曰願與皇子將

馳獵於淡路謀泄六月庚戌蕪我馬子宿禰等奉炊屋姬尊○炊

尊後二大統ヲ繼グ推詔佐伯連丹經手土師連磐村的臣真齒

曰汝等嚴兵速往誅殺穴穗部皇子與宅部皇子是日夜半佐伯

連丹經手等圍穴穗部皇子宮於是衛士先登樓上擊穴穗部皇

子肩皇子落於樓下走入偏室衛士等舉燭而誅辛亥誅宅部皇

子宅部皇子檜隈天皇之善穴穗部皇子故誅云秋七月蘇我

馬子宿禰大臣勸諸皇子與群臣謀滅物部守屋大連泊瀨部皇

子竹田皇子厩戶皇子云率軍旅進討大連云大連親率子

弟與奴軍築柵城而戰於是大連昇衣揭朴枝閉臨射如雨云

爰有迹見首赤擣射墮大連於枝下而誅大連并其子等由是大

連之軍忽然自敗云八月甲辰炊屋姬尊與群臣勸進天皇即

天皇之位

孝德天皇

孝德天皇紀首條 天萬豐日天皇〇孝德天 天豐財重日足姬天

皇〇皇極天 同母弟也云 天豐財重日足姬天皇四年六月庚

戌天豐財重日足姬天皇思欲傳位於中大兄〇天智天 而詔曰

云 中大兄退語於中臣鎌子連中臣鎌子連議曰古人大兄殿

下之兄也輕皇子殿下之舅也方今古人大兄在而殿下降天皇

位便違人弟恭遜之心且立舅以答民望不亦可乎於是中大兄

深嘉厥議密以奏聞天豐財重日足姬天皇授璽綬禪位策曰咨

爾輕皇子〇孝德天 云輕皇子再三固辭轉讓於古人大兄名更

古人大市皇子〇古人大兄 皇子ハ舒明天 曰大兄命是昔天皇

所生而又年長以斯二理可居天位於是古人大兄避座遂巡拱

手辭曰奉順天皇〇皇極天 聖旨何勞推讓於臣臣願出家入于

吉野勤修佛道奉祐天皇辭訖解所佩刀投擲於地亦命帳內皆

令解刀即日詣於法興寺佛殿與塔間剔除髻髮被著袈裟由是

輕皇子不得固辭升壇即祚

光孝天皇

陽成天皇紀元慶八年二月四日 先是天皇手書呈送太政大

臣曰朕近身病數發動多疲頓社稷事重神器厄守 所願速遜此

位焉宸筆再呈肯在難行是日天皇出自綾綺殿遷幸二條院云

云 二品行兵部卿本康親王右大臣從二位兼行左近衛大將源

朝臣多云 扈從文武百官共奉如常但少納言不奏給鈴之狀

諸衛不稱警蹕神璽寶鏡等依例相從驛鈴符內印管鑰等留置

承明門內東廊云 會文武百官於院南門詔曰云 〇天皇位

ト 告ル 文又 皇位波 一日母 不可曠一品行式部卿親王波 諸

親王中 爾貫首毛 御坐又 前代爾 無太子時波 如此老德乎 立奉

之例在 必以 御齡母 長給比 御心母 正直久 慈厚久 慎深御坐天

皇代通考卷之三

四朝 ハ 佐仕 給 天 政道 母 熟給 利 百官人 天下 公民 未 天 謳歌 所  
飯成無異望故是以天皇璽綬 乎 奉天 日繼位定奉 良久親王  
等王等臣等百官人天下公民衆聞給 部 宣中納言在原朝臣行  
平於庭誥之百辟群寮並立侍事畢王公已下拜舞而退於是  
神璽寶鏡等付於王公即日親王公卿步行奉天子神璽寶鏡等  
今皇帝 光孝 天 於東二條宮

○後白河天皇

百鍊鈔 後白河天皇 諱 稱 云 鳥羽院第四皇子 云 大治二  
年丁未九月十一日誕生同十一月十四日為親王久壽二年七  
月廿四日踐祚 年 廿  
保元物語卷一 久壽二年秋夏の頃より近衛院御ありま  
く し が 七月中旬より八月下旬のまき く あ き あ り あ る は 法 皇  
院御座の同より つ し も あ ら ず 云 つ ひ は 七月廿三日より ま か く れ さ

世終 ハ 河平 ナ 十七 近衛院 是なり 尤 き 法 皇 は ひ ね り

法皇 鳥羽 天 女院 美福門 院 は あ け き こ あ り あ ら る こ

り 新院 崇徳 天 は 時 を え そ わ が ま こ を 位 お ろ う つ た

とも 重仁親王 は 定 今 交 ハ 位 よ つ の 世 終 を ん と 終 り け さ せ

抑 ハ さ せ る も 天 下 諸 人 も ま か く 存 り も あ ら ず 思 は お

に 美福の院 は 河 平 を う ら ひ ま す 後 白 河 院 を 時 ハ 甲 は 家

と 抑 ハ こ め れ る お も を し を 出 位 よ つ け あ り 終 ひ

う は た の き も い や も 思 は お の り も 抑 ひ り

○後嵯峨天皇

皇胤紹運録 後嵯峨院 諱 邦仁 云 仁治三年正月廿日踐祚

廿三 同日元服 天皇 立親 儀 ナ シ

増鏡卷二 山 む 月 仁 治 三 年 終 五 月 より 内 終 る

皇 例 な ら ぬ 河 平 を と あ ら し 云 九 日 終 院 を 終 れ さ 世 終 ぬ





○光明天皇

皇胤紹運錄 光明天皇諱豐仁ユタヒ為光嚴院御猶子元亨二年二月十三日立親王建武三年八月十五日踐祚先於大納言良基卿亭摸仁治例被行次第事其儀併被摸壽永例云

太平記卷十六北條家本持明院殿ノ君主法皇○花岡天上皇ヲイフ

皇○光嚴天親王王○豊仁親ヲバ洞院大納言公泰卿勅使ニテ山門ニ同臨幸成奉ルベキ由申サレケレバ○後醍醐天皇足利尊氏ノ兵ヲ避ケテ延曆寺ニ幸スルトキ花園法皇光嚴上皇及豊仁親王ヲ舊ヲモ俱ニ臨幸スベキ由ヲ使者ヲ以テ促サルナリ

院○後伏見天ノ御喪籠法事ノ内ナレドモ御道避有ベキナラネバ既ニ臨幸ナルベキ由申サル即太田判官全職路次ヲ警固シ奉リテ供奉仕ケリ然ニ既ニ出御成ケレバ御不豫ノ事有テ暫出御ヲ押ヘラレケリ後日ニ事ノ心ヲ按ズルニ尊氏卿院宣ヲ故院○後伏見天成サレシ事ナレバ御世務ノ事

思召放レザリケルニヤ其上尊氏卿モ内々申入音ヤ有ケシ去程ニ全職已下軍兵出御ヲ急ギ申ケル間既ニ上皇○光嚴ヲ御輿ニ召レ臨幸ナリケルニ河原ノ邊ヨリ猶御違例苦々シク成セ給ヒケレバ姑ク御輿ヲ昇居エ奉リテ御立直シヲ蒞奉ル程ニ時刻移リケル處ニ逆徒等○尊氏ノ既ニ亂入スト見エテ兵火四方ニアガリ関街衢ニ響ケレバ全職申ケルハ御違例ヲ推テ嶮岨ヲコエ奉ランモ行末ノ御煩御不豫御増氣ノ基成ベシ逆臣既ニ京洛ニ入方々ニ合戦始ルヲ見ナガラ暗然トシテ蒞奉ルベキニ非ズ敵ニ路ヲ推隔ラレナバ海ルニ益有マシケレバ全職ハ先山門へ急馳参スベシ面々ハ御違例ノ様ニ依テ急山門ニ成奉ルベシト供奉ノ人々ニ申置テ全職ハ山へ参リケリ此折節尊氏卿持明院殿ニ御兵士ヲ進シケレバ未明ニ山門へ出御ト仰ケレバ面々アキレ

テ若臨幸ニヤ參會スルト馳廻尋申ケルガ、聖運ヤ然ラシメ  
 ケン誤タズ石塔ノ邊ニテ參會シケレバ斜ナラズ喜ビ申、尊  
 氏卿ノ使ト申ケレバ君モ喜ビ思召、供奉ノ人々資名卿重資  
 朝臣等モ各々色ヲ直シケレバ、聽テ武將ノ命トシテ六條長  
 講堂ヲ御所トシテ武家守護シ奉ル、其後京中ノ合戰兩方ノ  
 勝負イマダ落居セザルノ間、六月三日三主ノ臨幸ヲ八幡ニ  
 成奉ル、同月十四日ニ八幡ヨリ御歸洛アリテ東寺ニ幸シ灌  
 頂堂ヲ御所ニ構フ、是尊氏卿ノ沙汰ニ依テナリ、是ハ尊氏卿  
 洛中戰場ノ間東寺ヲ城郭トスル故ナリ、是ニ依テ山門伺候  
 ノ外ノ人々並ニ持明院無貳ノ佞臣ハ各東寺ニ參ジケリ、同  
 年〇建武三年改元シ六月晦日ヨリ山門ノ合戰ニ利ヲ得ザ  
 リシカバ、將軍ヲイフニ馳附勢日々ニ重リ既ニ四海ヲ掌ニ  
 セシカバ、同年八月十五日ニ押小路烏丸ニ二條中納言良基

卿ノ宿所ニシテ、後伏見院第二皇子豐仁親王〇光明天ヲ皇  
 位ニ定奉リケリ〇光明天皇ノ踐祚ヲイフ

皇年代略記 建武三年五月二十五日後醍醐帝山門行幸欲

被伴申光嚴帝處、依御腦不慮御逗留、尊氏申沙汰奉入六條殿

六月三日臨幸八幡、同十四日還御六條殿、自彼又幸東寺、八月

十五日奉伴豐仁親王〇光明天ヲ幸權大納言良基、押小路烏丸

亭有立王事、同二十二日奉伴新帝〇光明天還幸東寺

〇後光嚴天皇

皇胤紹運錄 後光嚴院諱彌仁云觀應三年八月十七日踐

祿未立親王、自持明院殿渡土御門殿、先於東小御所、有御元服

事、其後渡御寢殿、被行次第事、今度不被行節會、不及宣命、每事

新儀 皇年代略記 後光嚴院諱彌仁云曆應元年戊寅三月二日誕

生觀應三年壬辰八月十七日踐祚五今日先立親王當日自持明

院殿渡御土御門殿

椿葉記 崇光院ハ光嚴院弟一孫皇子少ク後嵯峨院弟

皇統少ク海ニ入リ御在位ニシテ三年天下ニ治レテ

觀應二年十月七日南朝ハ御宇ナリハ後村上天皇ヨリ元奉リテ

即位ニ廢スハ同十二月廿八日太上天皇ニ尊号ヲ奉リテ

山口光西院ハ俄ニ出家アリ法榮心トキニシテ、主後伏見の

法安寺ニ入リ、袈衣ヲ着シ海ニ入リ、長谷寺の御菴ヲ

山隱居アリ、同二年閏二月廿日南朝ハ天氣ヨリシテ

兩上皇〇光嚴天皇光新院〇崇光天皇天儲皇直仁親王八幡軍

陣ニ幸シ海ニ入リ、南方ニ官軍利ありシ、ハ

より没後、河内國東條ニ移リ遷幸アリ、同五月ニま

大和國加名生ニ離テ海ニ入リ、同八月ニ光嚴院弟

落飾アリ、主後河州ノ所ニ入リ、袈衣ヲ着シ、

了シ、ひハ山國ニ所ニ入リ、庵ニ山隱居アリ、

ある、さて東宮〇直仁親王ハ廢セレ、光嚴院弟二宮〇

光嚴天皇天同八月十七日踐祚アリ、父の所ニ入リ、

武將〇尊氏ハ能クひハ行ハ、

太平記卷三十二 後光嚴院御即位事、今度吉野殿〇後村上

ト將軍〇尊氏ハ御合體ノ議破レテ合戦ニ及シ、刻持明院

ノ本院〇光嚴天皇天新院〇光明天皇上崇光天皇春宮〇直仁親

梶井二品親王マテ皆南方ノ敵ニ囚レサセ給ヒテ、或ハ賀名

生ノ奥或ハ金剛山ノ麓ニ御座アレバ、都ニハ御在位ノ君モ

オハシマサズ、山門ニハ時ノ貫首モ渡ラセ給ハズ、此平安城

ト比叡山ト同時ニ始マリ已ニ六百餘歳、一日モイマダ懸ル

事ヲバ承及バズ、是ゾ末法ノ世ニ成ヌル驗ヨト淺マシカリ

シ事ドモナリ、サレドモ角テハ如何アルベキトテ天名座主  
 ニハ梶井二品親王ノ御弟子承胤親王ヲ成シ奉ル云云サテ  
 御位ニハ誰ヲカ即ケ進ラズベキト尋求奉ル處ニ本院第二  
 ノ御子皇○後光嚴天三條内大臣公秀、御女三位殿御局、後ニハ  
 陽祿門院ト申シ御腹ニ生レサセ給ヒタリシガ今年十五ニ  
 成セ給フヲ、日野春宮權大進保光ニ仰テ南方ヘ取奉ラント  
 セラレケルガ、兎角料理ニ滞リテ保光京都ニ捨置奉リケル  
 ヲ尋出シ進ラセテ、御位ニハ即進ラセケルナリ

○後圓融天皇

皇胤紹運錄 後圓融院諱緒仁云 應安四年三月十五日著  
 袴四同廿日親王同廿三日元服同日受禪  
 後深心院閑白記 應安四年三月廿一日乙巳、是日天皇○後  
 天皇一ヲ遷御藤中納言忠光卿、柳原第、明後日可有讓位之故也

云 裏書云後聞今夜行幸已後有親王宣下事○後圓融天皇  
 事アリ云 廿三日丁未陰戌刻地震今日天皇讓位也、儲皇○

圓融天皇先於柳原内裏清涼殿儀有御元服事云 事了渡御土御

門御殿云 上卿右大臣著陣行警固固閑事云 其間大納言

被召御前云 杯酌三巡云 事了退出、徘徊便宜所云 未刻

節會始云 事了人人參新帝御所無劍奎渡御之儀

椿葉記 たいり皇○後光嚴天伏見皇崇光天一と沖中よく

中通せしれ侍る、その頃將軍○義満ハ幼少ハ執事

細川武藏守頼之朝臣天下に事ハと皇さハヤ侍り

内裏ハハ近き居ども内廷ありて沖讓國にきたり

風穿せしうは、伏見後より榮仁親王○崇光天皇

リ踐祚のより後深心院以來正嫡○第一ノ皇子

の次序を日野中納言教光卿を勅使ハ武家へ作せ



事一とのまおろしめされらるとちん  
○長祿寛正ノ間畠山政  
 長義就各宗家ヲ相争フ  
 京師騷然タリ、征夷大将軍足利義政意ヲ加ヘズ、後花園天  
 皇コレヲ患ヒ遂ニ皇位ヲ讓ラント欲スルニ至レルナリ  
 同書卷十 後土御門院百あまより四よあまより 孫小御門  
 御諱成仁と申 幸り後花園院の一孫ふあま云 寛正  
 五つとや一 七月御位ゆがり孫より侍る、御と一二十  
 ころむらりやあまらせあへる、いと盛まふ自ひやう殿の  
 御容より、御心をもらうく、と愛敬つきまゝあまら  
 りよおはしませば、上人あまもいととらう御ひつきまら  
 て、まご皇子おおはしませば、時よりいひせまらる人おわく  
 形ん、孫二條は太政大臣を關白せさせ給ふ  
○後花園天皇長祿  
 二年四月ヲ以テ成  
 仁ヲ親王トス、成仁親王立太子ノ儀ナシト雖ドモ、羣臣コレ  
 ヲ貴重スルコト皇太子ノ如シ、寛正五年七月ニ至テ親王遂  
 ニ皇位ヲ繼承ス、按ズルニ長祿寛正ノ間  
 兵乱相踵グ、故ヲ以テ立太子ノ儀ナキカ  
 ○後柏原天皇

皇胤紹運録

後柏原院諱勝仁云

文明十二年十二月十三

日立親王七十同廿日於前左大臣、小河第御元服、明應二年正月

六日叙三品、九年十月廿五日踐祚七十今日被渡劔璽内裏小

御所為御所有此儀、日來令住内裏之北對屋給、為踐祚移小御

所于時先帝○後土御門崩御于黒戸

池の藻屑卷十 内○後土御門あは字○勝仁親も孫びさせ

孫く、讓らせ給ふんことを思ひ、百も世の中、のらうおは

さまよつたたらせ給ひらるるが、次能年の秋、上○後土御門ハ

あのみほそう思ひありて、くご物あどもも御院に入ら

るもあまやつれさせ給へむ、世もいと定めあまをわが

百を譲り字えさせ給ひ、さき御心をかおわすまは

づり上人あまも思ひ給らる、九月五日、浸まらうあまを

孫ひぬ、御位能程も内裏さ定まらう、愛かこり

皇立盛衰書 卷之三

迂々せ給ひてやすけあく思へる程のせ給ひしふ、津  
はありのいとあまきも死もあてつうまつる人あく、哀  
あつ所事、あまき月を誠つて馬戸におはし、まらせしり十一  
月、あまき泉涌奇あててまらける。

同書卷十一 百五代新帝ハ皇〇後柏原天 泐諱勝仁とや事

る先帝〇後土御門 泐一の皇子あてて云 昭應九年十月

廿五日御葬三十七あて、泐位は即せ給ふ、泐、あまきと渡

らせ給ふ、あまき御所よりうつせ給はし、まら云内わらり

あまきもいまあまきうはえあまきもあまきあまきあまきあ

やういれれたあまき程あて、あまき代あまきあまきあまきあ

あまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあ

あまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあまきあ

あまきわづらひさきうらひき〇後柏原天皇立太子ノ儀ナクシ  
ナルヲ知ラズ、按ズルニ後土御門天皇ヲ継承ス、其ノ故如何  
諸國貢獻セズ朝廷ノ衰弊極ル、故ヲ以テ立太子ノ儀ナキカ

〇後奈良天皇

皇胤紹運録 後奈良院諱知仁云 永正九年四月八日立親

王十七 同廿六日御元服、加冠、閑白九條尚 理髮頭中将實胤朝

臣、小御所、簾中、最密儀也云 大永六年四月廿九日踐祚、同夜

移本殿〇是ノ時ニ當テ天下猶平穩ナラズ朝廷ノ費用支ヘ

元服最密儀トアリ 以テ推考スベシ

二水記 大永六年四月廿九日天陰晚頭雨降、今日有踐祚事

薄暮参内云 頃之親王〇知仁親王ニシテ 御方渡御也云

先左少将孝顯冠取御劔云 入御了於議定所上御坐 被改御直

衣云 入御于常御所、則劔重等令拜見御云云、今度別殿儀依

無其便先親王渡御儀有之云云、仍劔重渡御事不及其儀也、先



例如何之由有沙汰但當時之儀又有何事哉云云

管別記 大永六年四月廿九日云云 今夜踐祚依武家要脚云

云御議定所内立廻御屏風為御座間御裝束者紫苑色御直衣ナウシ

鳥禊御指貫也云云 白河少將孝顯持御劔近臣祇候之輩皆供

奉云云 次於議定所有御祝但臣下次自議定所密密入給劔壘

閉此儀准劔壘被請取之作法云云 此等之次第一向不可說之

偏不恐之義也悉皆律衣入道恣之用度支諸人諸目畢此ノ條

武家要脚遲遲ニ依テ延引ト有リ之度支ハサリシコト以テ

見ル ○正親町天皇 皇胤紹運錄 正親町院諱方仁云云 天文二年十二月九日為

親王同廿二日御元服弘治三年十月廿七日踐祚

沈の藻屑卷十二 今年弘治三又ノミきこと此とあり

云云 是てて堪べくもなき世ありとて上下此人ノミび

能く思ひける内皇ヲイフ 皇後奈良天 あもさあく 能く思ひける

まこととされ給へるあまのりあやありつる聖方の名跡御身

おろつて御さるちそこあされさせ給ひらるが長月お八日

しうなるう世給へる、年迄あれつるままつりくくハハハ

のなりしう思ひ入るるもおほりりさやがとく御實たなハ親

五方仁親王ニテ即 正親町天皇ナリ 此御方あわくしきありし御踐祚

同書卷十三 百七代の帝ハ御諱方仁と申す云云 弘治

三年十一月廿七日御元服四十二ありし御位のことと侍る

○後西院天皇 皇胤紹運錄 後西院諱良仁云云 正保四年九月十五日為親

王十一云云 慶安四年十一月廿五日於院御所御元服十五加

冠閑白近衛尚 嗣公 理髮頭右大辨俊廣朝臣云云 承應三年十一月

廿八日踐祚十八

野史卷十二 後西院天皇云云 正保四年九月為親王、十一月

徙于高松宮、第更稱桃園宮、又稱花町宮、慶安四年十一月冠云

云 承應三年後光明天皇崩無嗣、群臣相議迎天皇奉劔璽、以十

一月二十八日踐祚院、先帝後光明天皇位ヲ繼承ス、故ヲ以テ立太

子ノ儀ニ及

〇靈元天皇

皇胤紹運錄 靈元院諱識仁云云 明曆四年正月廿八日為親

王云云 寬文二年十二月十一日於仙洞假殿一條右大臣御元

服九加冠白平公二條光理髮頭右中辨昭房朝臣、同三年正月廿

六日受禪

野史卷十三 靈元天皇云云 明曆四年正月為親王云云 寬文

二年十二月冠云云 三年正月徙于新内裏二十六日受禪廷朝

度支ヘザルヲ以テノ故ニ立太子ノ儀ナキカ、然ルヲ續皇年  
代略記ニ後西院天皇云云 寬文三年正月廿六日讓位於皇太  
弟トアリ、皇太子ハ靈元天皇ヲサシテ  
イヘレド誤ナリ、當ニ皇弟ニ作ルベシテ

今上

帝王御譜 今上天皇御名睦仁ヒムツ孝明天皇第一皇子云云

嘉永五年九月廿二日御降誕、万延元年九月廿八日立親王九

慶應三年正月九日御踐祚六十

皇子ノ皇后ノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承セシ事

欽明天皇 後白河天皇

〇欽明天皇

欽明天皇紀條首 天國排開廣庭、天皇〇欽明天皇大迹、天皇〇

體イ天皇嫡子也云云 天皇愛之常置左右、天皇〇欽明天皇幼時夢

有人云天皇寵愛秦オシ大津父者及壯大必有天下、寐驚遣使普求

得自山背國紀伊郡深草里云云 四年〇宣化天皇冬十月武小

廣國押盾天皇皇ヲイフ天崩皇子天國排開廣庭天皇令群臣曰  
 余幼年淺識未開政事山田皇后〇山田皇后ハ仁賢天皇皇后ナリ  
 明閑百揆請就而決山田皇后佈謝曰妾蒙恩寵山海誰同萬機  
 之難婦女安預今皇子皇ヲイフ天者敬老慈少云請諸臣等早  
 令臨登位光臨天下冬十二月甲申天國排開廣庭皇子即天皇  
 位時年若干

〇後白河天皇

保元物語卷一 久壽二年の夏能治より近衛院御ありま  
 く〜が七月下旬より八月やたれをまくるまき御ありあそ  
 清原政房能治同より〜  
 くれさせ給ふ御年十七近衛院是あり、むを〜まは  
 よはひあり、法皇〇鳥羽天皇女院〇美福門院乃御あけきこと  
 わりあもる〜、新院〇崇徳天皇は時をえ〜わのむこを

位りあつ〜の法も、重仁親王は定今後ハ位あつ〜せ  
 給ふんと侍りけさせ給〜ませり、天下諸人も皆か〜  
 存けらまよ、思給おはよ美福門院の由を〜ひま、後白  
 河院主御ハ四の女と〜御〜こめられ〜おさせ〜を此位  
 あつ〜のまり給ひ〜しは、たのきもいや〜給も思給お  
 のりよ御あひ〜り、此四の女も故侍美福門院の由を〜おさせ  
 院の由一腹なれば、女院の由為よ〜にもに由ま〜子取れども  
 心あ〜つ院の御心よハ重仁親王の位よつ〜せ給ひん〜を  
 給ひ〜法皇〜も由〜申させ給ひ〜あるなり、其由ハ  
 近衛院世を〜やく〜せさせ給ふことハ新院呪咀〜  
 あり給ふと〜御〜め〜、これおよ〜新院  
 の由〜らみ〜〜をさせ給ふもことわりなり

皇子ノ皇后ト群臣トノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承セシ事

崇峻天皇 後白河天皇

○崇峻天皇

崇峻天皇紀首 二年ノ用明天皇夏四月橘豊日天皇○用明崩云八月癸卯朔甲辰炊屋姫尊○敏達天皇ノ皇后ニ與群臣勸進天皇即天皇之位

○後白河天皇

保元物語卷一 久壽二年の夏秋ころより近衛院御あり  
まじりしに云つひお七月廿二日あられさせ給ふ云  
新院○崇徳天は時をえしと云ひ給ふを位よめりつら  
とも重仁親王ハ定々今夏ハ位よつせ給ふんと待りけ  
させおはしませり天下諸人ももあかく存けり

思ひお美福門院の西をうらひあそ、後白河院を時  
四時をよとくおしこめられしおはせしを位よつけ  
おはしたまひしにば、さきもいやはしきも思ひおのり  
おはひひりし皇十日後御共天不語人喜入御進登

古事談卷一 近衛院崩御之時後白河院ハ帝位殊外ニ御ケ

リ、八條院○鳥羽天皇ノ皇女ヲヤ女帝ニスエタテマツルベ  
キ、又二條院ノ今宮ノ小宮○鳥羽天皇ノ皇子トテ御坐ケル  
ヲヤ可奉付ナド沙汰アリケルニ、法性寺殿○関白忠今宮ノ  
后腹ニテ御座スルヲ○鳥羽天皇ノ皇子雅仁親下被奉置、  
可及異儀ト令計申給受禪云云○後白河天皇ノ皇位ヲ繼承  
談ト併考スルニ、美福門院ト法性寺○関白忠ノ皇位ヲ繼承  
ト勸進ナルコト瞭然タリ、因テ此ノ條ニ載ス

皇子ノ群臣ノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承セシ事  
允恭天皇 宣化天皇 光孝天皇 後嵯峨天皇

後光嚴天皇 後圓融天皇 稱光天皇 後西院天皇

○允恭天皇

允恭天皇紀首 五年〇反正天皇春正月瑞齒ハクシ別天皇〇反正

崩爰群卿議之曰方今大鷦鷯ササキ天皇〇仁德之子雄朝津間ヲ

稚子宿禰皇子〇允恭天與大草香皇子然雄朝津間稚子宿禰

皇子長之仁孝即選吉日跪上天皇之壘雄朝津間稚子宿禰皇

子謝曰云云 元年十有二月云爰大中姬仰歡則謂群卿曰皇子〇允恭

將聽群臣之請今當上天皇壘符於是群臣大喜即日捧天皇之

壘符再拜上焉皇子曰群卿共為天下請寡人寡人何敢遂辭乃

即帝位

○宣化天皇

宣化天皇紀首 武小廣國押解天皇〇宣化天男大迹天皇〇

體天皇第二子也云二年〇安閑天皇十二月〇大兄廣國押

武金日天皇〇安閑天崩無嗣群臣奏上劍鏡於武小廣國押盾

尊使即天皇之位焉

○光孝天皇

光孝天皇紀首 天皇諱時康仁明天皇第三之皇子也云元

慶八年二月四日太上天皇〇陽成天遷御二條院遜皇帝位焉

于時天皇在東二條宮親王公卿奉天子壘綬神鏡寶劍等天皇

再三辭讓曾不肯受二品行兵部卿本康親王起坐跪奏言歷數

攸在謳歌是歸昔者漢文三讓雖高猶當大橫之絲遂應代邸之

迎伏願陛下在此樂推幸聽於群臣矣是夜親王公卿侍宿於行

在所五日親王公卿引文武百官奉迎天皇即日鸞輿入御東宮

親王公卿扈從 愚管鈔卷一 さらけ法如十八年保ありそ廿六あり又子



ちし皇馬とつば何なりあらむと獲りておぼしき御用使  
 よせききくおいとあきはほしきりといふべきあはれは  
 そのむらりよりやうく御事しきりてあはれな御社お  
 てうぐさきとよりうふそのおと都おはいとここのびたの事  
 とも心のひききくといひしうか云へ何れが御使〇將軍頼經  
使者ナリ  
 ともやこふ万のより一守るる日ハ、両女院〇修明門院承明門院  
ヲイテ承明門院ハ後  
 嵯峨天皇ノより白河お人を立ちしつづのてあはれとらんせ  
 御母ナリ  
 られしをぞことわりおぼしき御見申せき事あらむを  
 心をとあきはさおぼゆるわがぞかへ云日づらしまた  
 れて城介義家といふもの三條河原おらちのて承明  
 門院の御事しきりある院といつづをともか御院より立  
 られしる者侍おはいとあやしけあるふしもとひりれぞ  
 きくこちちうつともおぼえは志あはくとちまへに土御門

越つまありしれど門にむごらつよりこちあはれとびらもさび  
 つきまらねえちてあはれづりするを郎等どもおとかく  
 せさせ、内よまありてつんまもせばあはれき若れむむし  
 松風よりほのちこころものもななく人お通へる路もあし  
 故通宗事お中將の御弟を子よしはへりし定通お  
 おとむをのりぞ、何となくおのづからおるしをやと思ひて  
 なんばめる烏帽子直衣あはれさかりひおひらるるが、中門お  
 いとて對面しはる、茂景はききし戸の服おかへこまりてぞ  
 侍りしる、阿波院〇土御門天皇ヲイフ 能御子〇後嵯峨天皇ヲイフ 御位おと  
 申してつごぬ、院の中しお人ともよち夢おこちし、物おぞ  
 あらりやまひける、仁治三年正月十九日おるのあり、世の  
 人のこちこれおどらきあはれとておし、返しこあへおあり  
 つごよ、馬車おひびきさわかぐ世おとあひを、四辻おは

あさましう中しくまのおぼしきまゝさるべし。又此日やぐら  
御けんふくせきせ路ふ云云。御しるふ邦仁御年廿三、その  
夜やぐら冷泉万里小路及つうつうせ路ひて、園院夜より  
叙壘まゝと波さる、踐祚の儀式いと名づら

皇年代略記 後嵯峨院諱邦仁云云。仁治三年壬寅正月廿日踐  
祚於大納言隆親卿冷泉万里小路亭三四條无繼嗣、為関東沙  
汰申行也、同日先有御元服云云

後光嚴天皇

椿葉記 崇光院ハ光嚴院弟ハ皇子ハ後嵯峨院以  
來皇統おろし海し、御在位三づつ、のふ三年、天下こ  
れを觀應二年十月七日南朝〇後村上御宇ナリ  
より、御位ヲオロシタルナリ。同日十月廿八日太  
上天皇ハ尊号を奉らる、以光明院俄ハ所出家あ

皇、御發心ときこゆ、そはち伏見の法安寺あり、禪衣を  
着し、海し、長谷寺ハ所菴ハ所陽在あり、同三年

同二月廿日南朝の乞氣ふより、兩上皇〇光嚴天皇ハ新

院〇崇光天皇ヲイフ儲王直仁親王ハ惱ハ軍陣ハ幸ハ海し、

云々、東宮〇直仁親王ヲイフハ廢せしめて、光嚴院弟ニ立〇親

王即ハ後光嚴天皇ナリ。同八月十七日踐祚あり、父ハ所あり、

武將〇尊氏ヲイフハはのひと申す、おこたひ

太平記卷三十二 後光嚴院御即位事、今度吉野殿〇後村上

ト將軍〇尊氏ヲイフト御合體ノ議破レテ合戰ニ及シ、刻持明院

ノ本院〇光嚴天皇ヲイフ新院〇光明天皇ヲイフ主上〇崇光天皇ヲイフ春宮〇直仁親

梶井二品親王マデ、皆南方ノ敵ニ囚レサセ給ヒテ、或ハ賀名

生ノ奥或ハ金剛山ノ麓ニ御坐アレバ、都ニハ御在位ノ君モ

オハシマサズ云云サテ御位ニハ誰ヲカ即ケ進ラスベキト



尋求奉ル處ニ本院第二ノ御子皇〇後光嚴天三條内大臣公秀  
御女三位殿御局後ニハ陽祿門院ト申シ御腹ニ生レサセ給  
ヒタリシガ今年十五ニ成セ給フヲ日野春宮権大進保光ニ  
仰テ南方ヘ取奉ラントセラレケルガ兎角料理ニ滞リテ保  
光京都ニ捨置奉リケルヲ尋出シ進ラセテ御位ニハ即テ進  
ラセケルナリ

〇後圓融天皇

椿葉記 だのり皇〇後光嚴天 伏見殿皇〇崇光天と御中よ  
中通せらるる侍も、そはころ將軍ヲ〇義満ハ知少みそ執事  
細川武藏守頼之朝臣天下に於てことハとりきたりほむ  
どりあそハ近き臣ども内儀ありそ御讓國に於てや  
風守せしむば、伏見殿より崇仁親王一〇崇光天皇弟踐祚  
する人後深草院に來正嫡ありし御理運に於て

を日野中納言教光卿を勅使して武家へ仰せらるる御  
返事ハ聖旨の如きを申す承久の末ハ武家より  
はのりひ申す世もなりぬれば、そのあも申さたせらる  
べきよしを再三仰せらるる御理運勿論とせん申あつ  
ら内裏より別々頼之朝臣を於て仰せらるるあよりそ  
所詮の如き御理運の御理運を申すに  
ひよ一御子皇〇後圓融天 〇所讓位ありぬ武家ひよ  
是員申しうハ力およばざる次第なり、さるるるごよ本院  
〇崇光天 〇新院皇ヲイフ たちま御中へ  
近むる御理運もこそろくおまひまわりのあ兄弟御  
中あも御位あつるひ昔よりあることなれば、あつら  
なき事なり〇後圓融天皇ハ御父後光嚴天皇ノ讓ヲ受ク  
ニ因ル、故ニ此ノ條ニ載ス

〇稱光天皇

南方紀傳下卷 稱光院人王百二代云云應永廿巳癸年云云  
 八月廿九日躬仁親王受禪、河津實仁改改云云此河津即位  
 於時伏見屋 〇崇光天皇ノ皇子榮仁親王ヲイフ、是ヨリ先  
 親王薙髮アリ、因テ按ズルニ子治仁王ヲ以テ  
 皇位ヲ繼承セシカモ南帝能志子 〇後龜山天皇ノ皇子也、河津即  
 位於河津也、三人並テ河津禪論あり、躬仁親王武家  
 家ハ足利實仁皇ヲイフ、是員ノ皇子也、河津即位、踐祚  
 義持ナリ、實仁皇ヲイフ、是員ノ皇子也、河津即位、踐祚  
 あり、此時伊勢能國司并小大和紀伊河内陸奥能志子方  
 即チ南朝方ニテ其ノ黨ノ人々良泰親王ヲ一同子訴ル、河津  
 以テ皇位ヲ繼承セシメ、河津即位、踐祚、河津即位、踐祚、河津  
 〇河津即位、河津即位、河津即位、河津即位、河津即位、河津  
 一ノ皇子ナリ、而シテ立太子ノ儀ナシ、因テ按ズルニ初南  
 合體ノトキ後龜山天皇ト後小松天皇ト迭立ノ時及テ其ノ受  
 以テ立太子ノ儀ナキカ、天皇ト皇位ヲ讓ルノ時及テ其ノ受  
 ル者未定ラズ、群臣ノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承セシ事

〇後西院天皇

野史卷十二

後西院天皇、諱良仁、後水尾帝第六子也云云正  
 保四年九月為親王云云承應三年九月後光明天皇崩無嗣、群  
 臣相議迎天皇奉劔璽、以十一月廿八日踐祚、河津即位、踐祚、  
 皇子ノ皇太子ヲ超テ皇位ヲ繼承セシ事

河津即位、踐祚、河津即位、踐祚、河津即位、踐祚、

〇顯宗天皇

仁賢天皇紀首 二年 〇清寧天皇夏四月遂立億計天皇 〇仁  
 皇ヲ為皇太子事具弘計五年白髮天皇 〇清寧天皇崩、以天下讓  
 弘計天皇 〇顯宗天皇為皇太子如故 〇皇太子皇位ヲ弟顯宗天  
 リナ

〇孝德天皇

孝德天皇紀首 天萬豐日天皇 〇孝德天皇天豐財重日足姬天  
 皇 〇皇極天同母弟也 皇 〇皇極天皇 〇孝德天皇天豐財重日足姬天  
 皇 〇皇極天同母弟也 皇 〇皇極天皇 〇孝德天皇天豐財重日足姬天

云四年〇皇極天皇ノ四年ニシテ即六月庚戌天豐財重日足  
 姫天皇思欲傳位於中大兄○天智天皇ヲイフ時而詔曰云云  
 中大兄退語於中臣鎌子連鎌子連議曰古人大兄フルビト、オヒネ殿下之兄也  
 輕皇子○孝德天皇ヲイフ殿下之舅也方今古人大兄在而殿下陟天皇  
 位便違人弟恭遜之心且立舅以答民望不亦可也於是中大兄  
 深嘉厥議密以奏聞天豐財重日足姫天皇授璽綬禪位策曰咨  
 爾輕皇子云云輕皇子再三固辞云云由是輕皇子不得固辞升  
 壇即位

皇子ノ立親王ノ儀ナクシテ直ニ皇太子ト為テ皇  
 位ヲ繼承セシ事

皇子ヲ以テ更ニ親王ト稱スルハ中世以來ノ制  
 ナリ其ノ制ヨリ以前ノ者ハ此ノ條ニ載セズ  
 聖武天皇 清和天皇 陽成天皇 後鳥羽天皇

土御門天皇 後小松天皇

〇聖武天皇

元正天皇紀 神龜元年〇養老八年ヲ以テ二月甲午天皇禪

位於皇太子〇聖武天皇

聖武天皇紀 天璽國押開豐櫻彦天皇〇聖武天皇ノ天之真宗豐

祖父天皇〇文武天皇之皇子也云云和銅七年六月立為皇太子

于時年十四二月甲午受禪即位於大極殿

皇年代略記 聖武天皇諱首オホトモ云云大寶元年辛降誕和銅七年

甲六月庚辰加元服立太子十養老八年甲二月四日受禪〇扶

記卷六元明天皇和銅七年六月廿八日子條二、首皇子ヲ豊櫻

〇清和天皇

清和天皇紀條首 天皇諱惟仁オホノ文德天皇之第四子也云云嘉祥

三年歲在庚午三月二十五日生天皇於太政大臣東京一條第





皇年代略記 土御門院諱為仁云云建久六年乙卯十二月二日  
誕生九年戊午正月十一日受禪四於閑院兼日无立親王立坊事  
今日先為皇太子

毘沙門堂所藏記 土御門院建久九年正月十一日受禪云云  
宣命使云云為仁王皇太子止定天日嗣乎傳云云

〇後小松天皇

皇年代略記 後小松院諱幹仁云云永和三年丁巳六月廿六日  
誕生永德二年四月七日著袴十一日受禪六今日先立太子不

立親王

皇子ノ立親王ノ儀ナクシテ直ニ皇位ヲ繼承セシ  
事

〇後嵯峨天皇

皇年代略記 後嵯峨院諱邦仁云云承久二年庚辰二月廿六日

誕生仁治三年壬寅正月廿日踐祚於大納言隆親卿冷泉萬里小  
路亭廿三四條皇〇四條天无繼嗣為閑東沙汰申行也

皇子ノ皇位ヲ繼承スルヲ辞シ而シテ後非常ノ事  
故有テ皇位ヲ繼承セシ事

〇天武天皇

天武天皇紀上首條天淳中原瀛真人天皇〇天武天命開別  
天皇〇天智天同母弟也幼曰大海人皇子云云納天命開別天  
皇女菟野皇女〇持統天為正妃天命開別天皇元年立為東宮  
四年冬十月庚辰天皇〇天智天卧病以痛之甚矣於是遣蘇賀  
臣安麻侶召東宮引入大殿時安麻侶素東宮所好密頌東宮曰  
有意而言矣東宮於茲疑有隱謀而慎之天皇勅東宮授鴻業乃  
辭讓之曰臣之不幸元多病何能保社稷願陛下舉天下附皇后  
〇倭姫王皇仍立大友皇子宜為儲君臣今日出家為陛下欲修







臣不從百姓乖違乃出之匿物部大前宿禰之家穴穗皇子聞則圍之大前宿禰出門而迎之云云乃啓皇子曰願勿害太子臣將議由是太子自死于大前宿禰之家伊豫國十二月壬午穴穗皇子即天皇位

皇女ノ皇太子ト為リテ皇位ヲ繼承セシ事

○孝謙天皇

聖武天皇紀 天平十年春正月壬午立阿陪内親王皇○孝謙天皇ヲイフ為皇太子

同書 天平感寶元年秋七月甲午皇太子受禪即位於大極殿水鏡中卷 汝若みりと孝謙天皇と云ふは、聖武天皇は清女所母ハ不比等トの所むむる光明皇后トおとすまは天平勝寶元年七月二日位よつきたまふ、清和一世、世をたう、隆和こと十年あり、所おとす小東女おとす、

神龜五年ハ所年ニ事ありう勢強ひあは此所の位をつぎおとす

皇女ノ直ニ皇位ヲ繼承セシ事

皇女ノ皇位ヲ繼承スルハ皇子ノ皇太子ニ立チ而シテ後寶位ニ即クノ例ノ如シ故ニ皇女ノ皇太子ニ立タズシテ皇位ヲ繼承スルハ恒典ニ非ズ必ズ事故アルニ繇ル

推古天皇 持統天皇 元明天皇 元正天皇

明正天皇 後櫻町天皇

○推古天皇

推古天皇紀 豐御食炊屋姫天皇○推古天皇ヲイフ天國排闥廣庭天皇皇○欽明天中女也云云當于泊瀨部天皇皇○崇峻天為大臣馬子宿禰見殺嗣位既空群臣淳中倉月天皇皇○崇峻天為大臣馬子宿禰見殺嗣位既空群臣淳中倉

太珠敷天皇敏達天皇之皇后額田部皇女推古天皇以將令踐祚皇后辭讓之百寮上表勸進至于三乃從之因以奉天皇璽印冬十二月己卯皇后即天皇位於豐浦宮

○持統天皇

持統天皇紀高天原廣野姬天皇持統天皇少名鸕野讚良皇女天命開別天皇天智天皇第二女也云云天豐財重日足姬

天皇齊明天皇三年適天淳中原瀛真人天皇天武天皇為妃云

云朱鳥元年九月丙午天淳中原瀛真人天皇崩皇后持統天皇臨朝稱制云云四年春正月戊寅朔物部麻呂朝臣樹大盾神祇

伯中臣大島朝臣讀天神壽詞畢忌部宿禰色夫知奉上神璽劍

鏡於皇后皇后即天皇位武天皇太子草壁元年九月然レド以テ崩

後皇位ヲ繼承ス其ノ故未ダ詳ナラズ

○元明天皇

元明天皇紀日本根子天津御代豐國成姬天皇元明天皇小名阿閉皇女天命開別天皇天智天皇之第四皇女也云云適

日並知皇子尊生天之真宗豐祖父天皇文武天皇慶雲三年十

一月豐祖父天皇不豫始有禪位之志天皇謙讓固辭不受四年

六月豐祖父天皇崩庚寅天皇御東樓詔召八省卿及五衛督卒

等告以依遺詔攝萬機之狀秋七月壬子天皇即位於大極殿武

武天皇崩ス時ニ前ニ皇子繼リ皇位云云慶雲四年六月十五日天皇春

扶桑略記卷五文武天皇云慶雲四年六月十五日天皇春

秋廿五崩云遺詔云舉哀三日凶服一月朕之母儀阿閉皇女

宜攝萬機嗣天皇位矣元明天皇ヲ繼承セシコト此ノ記ノ文ヲ

ルヲ以テ知ル

○元正天皇

元明天皇紀 靈龜元年和靈龜八年ナルトイフ改元九月庚辰天

皇位繼承篇

卷之三

三三

皇位繼承篇

卷之三

皇禪位于氷高内親王皇〇元正天詔曰云云因此神器欲讓皇太子〇首皇子ナリ而年齒幼稚未離深宮底務多端一日萬機一品氷高内親王早叶祥符夙彰德音云云今傳皇帝位於内親王公卿百寮宜悉祗奉以稱朕意焉〇元正天皇ハ草壁皇子ナリ而シテ後元明天皇位ニ即クニ及テ御子ナレバ初ハ女子ナリ

元正天皇紀首條日本根子高瑞淨足姬天皇〇元正天皇天淳中原瀛真人天皇〇天武天皇之孫日並知皇子尊之皇女也云云九月和銅八年庚辰受禪即位于大極殿

〇明正天皇

皇胤紹運錄 明正院諱興子云云寬永六年十月廿九日為内親王七歲同年十一月八日受禪〇後水尾天皇位ヲ遜レシテ子寶位ヲ女一宮興子内親王ニ讓ル

〇後櫻町天皇

皇胤紹運錄 後櫻町院諱智子云云寬延三年三月廿八日為

内親王云云寶曆十二年七月廿七日踐祚

野史卷十八 後櫻町天皇云云寬延三年三月為内親王云云

寶曆十二年七月桃園帝大漸群臣議以英仁親王〇後桃園天皇

猶幼稚因明正帝故事決迎天皇廿一日桃園帝崩二十七日天

皇踐祚

皇統御譜 後櫻町天皇御諱智子云云寬延三年三月廿八日

内親王宣下十一歲云云寶曆十二年七月廿七日御踐祚主上桃

園院去十二日崩御依御繼體去廿日入御于内裏廿三歲同日諒

閣被准父帝

皇女ノ皇后ニ立チ而シテ後皇位ヲ繼承セシ事

推古天皇 持統天皇

〇推古天皇

皇女ノ皇后ニ立チ而シテ後皇位ヲ繼承セシ事

推古天皇紀首 豐御食炊屋姫天皇 皇〇推古天皇天國排開廣庭  
 天皇〇欽明天中女也橘豐日天皇 皇〇用明天同母妹也幼曰額  
 田部皇女云云年十八歲立為淳中倉太玉敷天皇之皇后達天敏  
 皇ノ皇后ト三十四歲淳中倉太珠敷天皇崩三十九歲當于泊  
 瀨部天皇〇崇峻天五年十一月天皇 皇〇崇峻天為大臣馬子宿  
 稱見殺嗣位既空群臣請淳中倉太珠敷天皇之皇后額田部皇  
 女以將令踐祚皇后辭讓之百寮上表勸進至于三乃從之因以  
 奉天皇璽印冬十二月巳卯皇后即天皇位於豐浦宮

○持統天皇

持統天皇紀首 高天原廣野姫天皇 皇〇持統天少名鸕野讚良  
 皇女天命開別天皇 皇〇天智天第二女也云云天豐財重日足姫  
 天皇 皇〇皇極天三年適天淳中原瀛真人天皇為妃云云二年天  
 武天皇ノ立為皇后皇后從始迄今佐天皇 皇〇天武天定天下每  
 二年

於侍執之際輒言及政事多所毗補朱鳥元年九月丙午天淳中  
 原瀛真人天皇崩皇后臨朝稱制云云四年云云皇后即天皇位

皇女ノ皇后皇位ヲ繼承シテ天皇ト稱セズ仍皇后  
 ト稱セシ事

○皇后鸕野讚良皇女 持統

持統天皇紀首 朱鳥元年九月丙午天淳中原瀛真人天皇  
 武天皇崩皇后 皇〇持統天臨朝稱制 〇持統天皇四年正月ニ至  
 皇年代略記 持統天皇諱菟野又号高天原廣野姫又号鸕野  
 讚良皇女天智第二女天武后云云天武三年甲二月為皇后朱  
 鳥元年丙皇后臨朝天武雖皇子坐以皇后攝天下以丁亥為元  
 年

皇女ノ皇位ヲ繼承シテ仍天皇ト稱セザリシ事  
 鸕野讚良皇女 阿閉皇女

〇鷓野讚良皇女持統天皇

持統天皇紀首條 朱鳥元年九月丙午天淳中原瀛真人天皇天  
武天皇崩皇后持統天皇臨朝稱制天皇四年正月天皇八天智  
于前殿皇女ナリ但三年正月ノ條及ボセルナリ

〇阿閉皇女元明天皇

元明天皇紀首條 慶雲三年十一月豐祖父天皇文武天不豫

始有禪位之志天皇阿閉皇女草謙讓固辞不受四年六月豐

祖父天皇崩庚寅天皇御東樓詔召八省卿及五衛督率等告以

依遺詔攝萬機之狀天皇是ノ皇女ナリ但慶雲三

年持統天皇云トアル皇女ノ萬機ヲ攝行シ而シテ後皇位ヲ繼承セシ事

〇元正天皇

神皇正統記中卷 第四十四代元正天皇ハ孝聖太子神皇

御母ハ元明天皇文武同母元龜

改元平城元正天皇

二品水高内親王一品トノ見エタリ又同年九月ノ條ニ授  
皇極位于高内親王曰乾道統天文明於主是歷大寶曰位  
震極位以居尊昔者揖讓之君旁求歷試于戈之主是歷大寶曰位  
厥後昆克隆鼎祚朕君臨天下撫育黎元蒙上天之保躬承基  
日遺慶海内晏靜區夏安寧然而今精華漸衰老期不怠翼々  
高踏風雲釋累遺政九載于茲今因以神品高内親王而年齒  
幼雅未離深宮庶務多端一脫屣因以神品高内親王而年齒  
於內親王公卿百寮仁悉祇奉以稱朕意焉神皇正統記  
皇女ノ群臣ノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承セシ事

〇後櫻町天皇

野史卷十八 後櫻町天皇諱智子櫻町帝第一女也云云寬延

三年三月為内親王云云寶曆十二年七月桃園帝大漸群臣議

以英仁親王○後桃園天皇ヲイフ猶幼稚因明正帝故事決迎天皇二十一日桃園帝崩二十七日天皇踐祚

皇女ノ皇后ノ群臣ノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承セシ

皇后ノ皇位ヲ繼承スルハ必皇族ノ皇后ナリ

○推古天皇

推古天皇紀首條五年崇峻天皇十一月天皇崇峻天皇ヲイフ為大臣馬子宿禰見殺嗣位既空群臣請淳中倉太珠敷天皇敏達天皇之皇后額田部皇女推古天皇ヲイフ以將令踐祚皇后辭讓之百寮上表勸進至于三乃從之因以奉天皇璽印十二月己卯皇后即天皇位於豐浦宮

愚管鈔卷一 推古云云崇峻殺され後ひてお針を位につけまゝむまねどの皇子を東宮とて世に政を

孝願此東宮用明の所なり

皇位繼承篇卷之三終

皇位繼承篇卷四

議官 福羽美靜 檢閱

編纂

少書記官 横山由清  
大書記生 黒川真頼

諸王

諸王ノ直ニ皇位ヲ繼承セシ事

諸王ノ皇位ヲ繼承スルハ恒典ニ非ズ必ズ事故アリ

ルニ繇ル次下ニ舉グル所ノ書ヲ見テ以テ其ノ

概略ヲ知ルベシ

繼體天皇 舒明天皇 後堀河天皇 後花園天皇

光格天皇

○繼體天皇 應神天皇五世之孫

繼體天皇紀 彦主人王之子 更名彦太尊 ○繼體天皇 神天

男大迹天皇 體天皇ヲイフ

男大迹天皇

譽田天皇

○應

皇位繼承篇

卷之三

皇ヲ五世孫彦主人王子也云云八年〇武烈天皇  
亥小泊瀨天皇〇武烈天皇崩元無男女可絶繼嗣壬子大伴金村  
大連議曰方今無繼嗣天下何所繫心自古迄今禍由斯起今足  
仲彦天皇五世孫倭彦王在丹波國桑田郡請試設兵杖夾衛乘  
輿就而奉迎立為人主大臣大連等一皆隨焉奉迎如計於是倭  
彦王遙望迎兵懼然失色仍遁山壑不知所詣

元年春正月辛酉朔甲子大伴金村大連更籌議曰男大迹王  
體天皇性慈仁孝順可承天緒云云丙寅遣臣連等持節以備法  
駕奉迎三國夾衛兵杖肅整容儀警蹕前駟奄然而至於是男大  
迹天皇〇繼體天皇晏然自若踞坐胡床齊列陪臣既如帝坐持節  
使等由是敬憚傾心委命冀盡忠誠然天皇意裏尚疑久而不就  
適知河内馬飼首荒籠密奉遣使具述大臣大連等所以奉迎本  
意留二日三夜遂發云云甲申天皇行至樟葉宮二月辛卯朔甲

午大伴金村大連乃跪上天子鏡劍璽符再拜男大迹天皇謝曰  
云大臣大連等皆曰臣伏計之大王〇已下普通本錯亂アリ  
子民治國最宜稱臣等為宗廟社稷計不敢忽幸籍衆願乞垂聽  
納男大迹天皇曰大臣大連將相諸臣咸推寡人寡人敢不乖乃  
受璽符是日即天皇位

〇舒明天皇 敏達天皇之孫  
舒明天皇紀首 息長足日廣額天皇  
天皇〇敏達天皇孫彦人大兄皇子之子也云云豐御食炊屋姫天  
皇〇推古天皇二十九年皇太子豐聰耳尊薨而未立皇太子以三  
十六年三月天皇崩九月葬禮畢之嗣位未定當是時蘇我蝦夷  
臣為大臣獨欲定嗣位云云

元年春正月丙午大臣及羣卿共以天皇之璽印獻於田村皇子  
〇舒明天云云即日即天皇位〇舒明天皇八敏達天皇ノ孫ニ  
皇ヲイフ云云



後世ニイフ諸王ニシテ皇位ヲ繼承セシ例ナリ

○後堀河天皇 高倉天皇之孫 守貞親王之子

皇胤紹運録 後堀河院諱茂仁 云 承久三年七月九日踐祚

十 依天下擾亂為關東沙汰有立王及父王尊號事 ○父王ハ高倉天皇ノ御

子守貞親王ニシテ後高倉天皇ト稱スル即チ是ナリ

増鏡卷二 衣 衣 其頃ハカガミマシラセ給ヒ給ル空カ

カケリ、守貞親王トシテ南宮ける、高倉院第三ノ御子あり、隠

岐の法皇 ○後鳥羽天 乃シテ此カウミカガミハカガミハカガミ

トカガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミ

カガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミ

カガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミ

カガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミ

カガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミ

○承久ノカガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミ

カガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミ

カガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミ

カガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミ

カガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミ

カガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミ

カガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミカガミ

○後花園天皇 崇光天皇之曾孫 貞成親王之子

皇年代略記 後花園院諱彦仁 後小松院第二皇子實後崇光

貞成親王御子 云 正長元年七月廿八日踐祚無立太子拜親王之

儀以太上天皇 ○後小松天 詔作宣命 關白持基 今日則被渡劔

重 椿葉記 宮中 方 ○彦仁親王ニシテ院 皇ヲイフ 後小松天 此御子

の儀あり踐祚あり、よろづの意化、おかしき、少歳十歳、おかし  
せま、まゝ、ゆづ、さ、世の不思議、おかし、天の下、おかし、  
ど侍る

○光格天皇 東山天皇之曾孫 典仁親王之子

續皇年代略記 今上皇帝 皇○光格天皇 御諱兼仁後桃園天皇皇

子、實東山天皇御曾孫直仁親王御孫典仁親王御子也 云 安

永八年十一月八日為御養子可有踐祚旨、睿慮御治定、閑院太

宰帥典仁親王第六男祐宮 九才○光格天皇 同月廿五日踐祚

諸王ノ皇太子ト為リ而レテ後皇位ヲ繼承セシ事

仲哀天皇 仁賢天皇 淳仁天皇 光仁天皇

○仲哀天皇 景行天皇之孫 日本武尊之子

仲哀天皇紀 首 足仲彦天皇 皇○仲哀天皇 日本武尊第二子也 云

云 稚足彦天皇 皇○成務天皇 四十八年立為太子 時一年三 稚足彦天

皇無男故立為嗣、六十年天皇 皇○成務天皇 崩云 云 大

元年春正月庚子皇太子即天皇位 ○仲哀天皇紀ニ成務天皇

非ズ唯皇位ヲ以テ天皇ニ傳ヘシニハ レドモ成務天皇ノ養子トヘシニハ

○仁賢天皇 復中天皇之孫 子之

仁賢天皇紀 首 億計天皇 皇○仁賢天皇 諱大脚字鳥郎弘計天皇

○顯宗天皇 同母兄也 云 白髮天皇 皇○清寧天皇 元年冬十一月播

磨國司山部連小楯詣京求迎 ○億計王弘計王ノ二王ノ播磨

ナリ コフ 白髮天皇尋遣小楯持節將左右舍人至赤石奉迎、三年夏

四月遂立億計天皇為皇太子 云 云

元年春正月乙酉皇太子 皇○仁賢天皇 於石上廣高宮即天皇位

○淳仁天皇 天武天皇之孫 舍人親王之子

淳仁天皇紀 首 廢帝皇○淳仁天皇 諱大炊王、天淳中原瀛真人天

皇之孫一品舍人親王之第七子也 云 天平勝寶八歲皇太子

道祖王諒闇之中心不在感九歲三月廿九日辛丑高野天皇孝  
謙天皇皇太后與右大臣從二位藤原朝臣豐成云等定策禁

中廢皇太子云四月四日辛巳遂迎大炊王於仲磨田村家立  
為皇太子時年廿五天平寶字二年八月庚子朔高野天皇禪位

於皇太子○皇太子ハ大炊王ニシテ即チ淳仁天皇ナリ  
光仁天皇○光仁天皇ハ天智天皇ノ子孫也

光仁天皇紀首條寶龜元年八月四日癸巳高野天皇○稱徳天  
崩群臣受遺即日立諱皇○光仁天皇為皇太子寶龜元年冬十月巳

丑朔即天皇位於大極殿  
諸王ノ皇子ト為リ而シテ後皇位ヲ繼承セシ事

文武天皇ハ草壁皇子ノ子ナリ後陽成天皇ハ誠  
仁親王ノ子ナレバ理共ニ諸王ニシテ後皇位ヲ

繼承セシニ似タリ然レドモコレハ此皇嫡孫ニ

條ニ載セズ

顯宗天皇 孝徳天皇

○顯宗天皇市邊押磐皇子ノ子弘計天皇顯宗天皇ノ弟大兄○大兄去來穗別天

皇○復イフ天孫也市邊押磐皇子云三年ノ清寧天皇云

云夏四月立億計王為皇太子立天皇為皇子云

元年春正月巳巳朔云皇太子推讓云云制曰可乃召公卿百

僚於近飛鳥八釣宮即天皇位○顯宗天皇ハ仁賢天皇ノ弟ニ

皇子トス皇太子以テニ王子ヲ迎ヘ、兄王ヲ皇太子トシ弟王ヲ皇

○孝德天皇 敏達天皇之曾孫

孝德天皇紀 首條 天萬豐日天皇 ○孝德天皇 天豐財重日足姬天

皇 ○皇極天同母弟也 皇 ○皇極天皇 孝德天皇 茅渟王ノ子ナリ 云

云四年 ○皇極天皇ノ四年ニシテ即六月庚戌天豐財重日足

姬天皇思欲傳位於中大兄 ○中大兄天皇太子イフ、時而詔曰云云

中大兄退語於中臣鎌子連、鎌子連議曰古人大兄殿下之兄也

輕皇子 ○孝德天皇殿下之舅也 方令古人大兄在而殿下陟天皇

位便違人弟恭遜之心、且立舅以答民望、不亦可也於是中大兄

深嘉厥議、密以奏聞、天豐財重日足姬天皇授璽綬禪位、策曰咨

爾輕皇子 云 輕皇子再三固辭 云 由是輕皇子不得固辭升

壇即位 諸王ノ降テ臣下トナリ復昇テ親王ト為リ尋テ皇太子トナリテ皇位ヲ繼承セシ事見ヤ

○宇多天皇

光孝天皇紀 仁和三年八月廿五日詔曰朕之諸兒皆錫朝臣

之姓、斯誠節國用息民勞之計也、今驚名列之、昌言仰思、祧祐之

重業、天潢豈可无一派、重華豈可无一片、枝圖億兆之平安、尋磐石

於漢典、占寰宇之固鎮、詠維城於周篇、匪劉匪姬、竟為其選、第七

子皇子定省年二十一、便侍朕躬、未曾出閣、寬仁孝悌、朕所鍾愛

前被混昆弟之雁行、遽縮一户、今欲傳祖宗之駿命、何溢請任、苟

不為身誰嫌、及汗其削、臣姓以列親王、心星宜肖帝子之名、岱岳

曷亂天孫之號、廿六日天皇聖體乖豫、是日立第七皇子諱 ○宇

皇 ヲイフ、天皇元慶中侍從ニ任ズ、時人王侍從ト稱ス、元慶

八年源姓ヲ賜フ、是ニ至テ親王ニ列シ、遂ニ皇太子ト為ル、為

皇太子 云 是日已二刻天皇崩於仁壽殿 云 扶桑略記卷廿二 宇多天皇 云 仁和三年丁未八月廿六日

諸王ノ群臣ノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承セシ事

繼體天皇 舒明天皇 後堀河天皇 後花園天皇

○繼體天皇 應神天皇五世之孫

繼體天皇 紀首 男大迹天皇 更名彦太尊 繼體天皇 〇譽田天皇 神天

皇ヲ五世孫彦主人王子也 云云 八年 〇武烈天皇 冬十二月巳

亥小泊瀨天皇 〇武烈天皇崩 云云 元無男女可絶繼嗣天下何處

繫心自古迄今禍由斯起 云云

元年春正月甲子大伴金村大連更籌議曰男大迹王性慈仁孝

順可承天緒冀慇勤勸進紹隆帝業物部麤鹿火大連許勢男入

大臣等僉曰妙簡枝孫賢者唯男大迹王也丙寅遣臣連等持節

以備法駕奉迎三國 〇越前ノ夾衛兵杖肅整容儀警蹕前驅奄

然而至 云云 甲申天皇行至樟葉宮二月甲午大伴金村大連乃

跪上天子鏡劔璽符再拜男大迹天皇謝曰子民治國重事也寡

人不才不足以稱願請廻慮擇賢者寡人不敢當大伴大連伏地

固請男大迹天皇西向讓者三南向讓者再大伴大連等皆曰臣

伏計之大王 〇已下普通本錯亂アリ 子民治國最宜稱臣等為

宗廟社稷計不敢忽幸籍衆願乞垂聽納男大迹天皇曰大臣大

連將相諸臣咸推寡人寡人敢不承乃受璽符是日即天皇位

○舒明天皇 敏達天皇之孫

舒明天皇 紀 息長足日廣額天皇 〇舒明天 淳中倉太珠敷天

皇 〇敏達天皇孫彦人大兄皇子之子也 云云 豐御食炊屋姫天皇

皇 〇推古天皇二十九年皇太子豐聰耳尊薨而未立皇太子以三十

六年三月天皇 〇推古天皇崩九月葬禮畢之嗣位未定當此時蘓

我蝦夷為大臣獨欲定嗣位 云云 〇此ノ間ノコト委シクハ皇

條ニ引ケリ合 見ルベシ 元年春正月甲午大臣及羣卿共以天皇之璽印獻於田村皇子





息長足日廣額天皇 皇〇舒明天二年立為皇后、十三年十月息長

足日廣額天皇崩

元年春正月辛巳皇后 皇〇皇極天即天皇位

水鏡中卷 次乃涉門 皇極天皇と云、敏達天皇のひこ

小おと... 敏達天皇のひこ... 云 壬寅年

正月十五日 信ふつき... 孫

女王ノ皇后ニ立テ而シテ後皇位ヲ繼承セシ事

〇皇極天皇

皇極天皇紀 首條 天豐財重日足姬天皇 皇〇皇極天淳中倉太珠

敷天皇 皇〇敏達天曾孫押坂彦人大兄皇子孫茅渟王女也 云

息長足日廣額天皇 皇〇舒明天二年立為皇后、十三年十月息長

足日廣額天皇崩

元年春正月辛未皇后 皇〇皇極天即天皇位

幼主

皇太子幼クシテ皇位ヲ繼承セシ事

皇太子未長ゼズシテ皇位ヲ繼承スルトキハ大

臣萬機ヲ保輔ス、宜シク人臣攝政ノ條ト併セ見

ルベシ

清和天皇 陽成天皇 醍醐天皇 朱雀天皇

一條天皇 後一條天皇 堀河天皇 鳥羽天皇

崇徳天皇 六條天皇 高倉天皇 安徳天皇

後鳥羽天皇 土御門天皇 仲恭天皇 四條天皇

後深草天皇 後宇多天皇 後伏見天皇 花園天皇

後村上天皇 崇光天皇 後小松天皇 東山天皇

中御門天皇 桃園天皇 後桃園天皇

〇清和天皇踐祚 年九歳



太政大臣藤原良房攝政

文德天皇紀 天安二年八月乙卯帝 ○文德天皇崩新政殿左

近衛少將率近衛等陣於東宮居 ○清和天皇ノ直曹西方大納言

安倍朝臣安仁率少納言近衛少將主鈴等令齎璽印櫃等奉入

直曹云 ○清和天皇位ヲ繼承セシナリ、天皇時二年九

裏書ニ良房時攝政ト安二年ノ條又貞觀七年清和天皇元服

シム條ニ良房攝政ヲ辭ス、八年重テ勅シテ下ノ政ヲ行セ

攝政勅テアリ、然ルヲ三行實録テハ、天皇幼冲ニテ、其ノ

ノ外威ハ大ニ始テ更ニ攝政ノ勅ハ、後帝ナリ、以テ然レドモ、未ダ攝政

ニ至テ、始テ更ニ攝政ノ勅ハ、後帝ナリ、以テ然レドモ、未ダ攝政

カヲ攝行セシテ、更ニ攝政ノ勅ハ、後帝ナリ、以テ然レドモ、未ダ攝政

臣藤原基經攝政ノ如シトアリ、忠仁公萬機ヲ行スルコト

受禪ノ仁公良房攝政ノ如シトアリ、忠仁公萬機ヲ行スルコト

○陽成天皇踐祚 年九歲

右大臣藤原基經攝政

清和天皇紀 貞觀十八年十一月廿七日車駕皇 ○清和天皇幸深

殿院廿八日天皇有意讓位故出居外宮云 廿九日皇太子陽

成天皇自出東宮駕牛車詣深殿院、是日天皇讓位於皇太子、勅

右大臣從二位兼行左近衛大將藤原朝臣基經、保輔幼主攝行

天子之政如忠仁公故事 ○陽成天皇時云 皇太子受天子神

璽寶劍御鳳輦歸於東宮、文武百官扈從如常儀

○醍醐天皇踐祚 年十三歲

東宮大夫藤原時平、春宮權大夫菅原道真輔佐

日本紀略 寬平九年七月三日卯二刻於清凉殿加元服 ○十

醍醐天皇ノ元服 午三刻太上皇 ○宇多天皇讓天祚于紫宸殿宇

多天皇位ヲ醍醐傳國詔命云春宮大夫藤原朝臣 ○時平權

大夫菅原朝臣〇道真少主未長之間一日萬機之政可奉可請之事可宣可行云

〇朱雀天皇踐祚 年八歲

左大臣藤原忠平攝政

日本紀略 延長八年八月十三日太子〇朱雀天皇與中宮〇朱雀天皇子ノ母ヲ遷御宜耀殿云九月廿二日壬午先帝〇醍醐天皇位讓皇太子〇忠平攝政內侍執劍璽參宣耀殿奉之〇是朱雀天皇踐祚ナリ

〇一條天皇踐祚 年七歲

右大臣藤原兼家攝政

日本紀略 寬和二年六月廿三日花山天皇偷出禁中奉劍璽於新皇〇兼家外祖右大臣〇兼家參入令固禁內警備翌日行先帝〇花山天皇讓位之禮〇一條天皇踐祚ナリ右大臣藤原朝臣攝

行萬機如忠仁公〇良房故事

〇後一條天皇踐祚 年九歲

左大臣藤原道長攝政

日本紀略 長和五年正月廿九日甲戌未刻三條院天皇逃位讓皇太子〇後一條天皇于時皇太子春秋九歲于時御坐上東門院〇後一條天皇外祖左大臣藤原道長朝臣攝行政事如忠仁公〇良房故事

〇堀河天皇踐祚 年八歲

關白藤原師實攝政

扶桑略記卷三十 應德三年丙寅十一月廿六日亥時踐祚〇堀河天皇當日辰時親王從車駕從關白從一位藤原朝臣〇師實大炊第御堀川院即關白祇候御車後大納言以下公卿皆悉前駢但內大臣藤原朝臣師通騎馬仕於後陣左右大臣依重

服不被供奉、亥時神璽寶劍受取、其儀式自三條院西門至堀川  
新内裏東門、掃部司敷筵道於大路、先帝皇白河天藏人頭左近  
中將源雅俊右近權中將藤仲實二人持神璽寶劍步行、關白從  
一位藤原朝臣師實内大臣藤原朝臣師通并大納言以下公卿  
近衛司等皆悉供奉、即夜有太子授位宣命關白改為萬機攝政  
詔上

○鳥羽天皇踐祚 年五歲

關白右大臣藤原忠實攝政

中右記 嘉承二年七月十九日 云

○以下引書ノ名ノミク  
ハ事故アル者  
ハ本文ヲ舉グ

百練鈔 嘉承二年七月十九日 云

○崇德天皇踐祚 年五歲

關白左大臣藤原忠通攝政

百練鈔 保安四年正月廿八日 云

公卿補任 保安四年正月廿八日 云

○六條天皇踐祚 年二歲

關白藤原基實攝政

百練鈔 永萬元年六月廿五日 云

公卿補任 永萬元年六月廿五日 云

○高倉天皇踐祚 年八歲

藤原基房攝政

百練鈔 仁安三年二月十九日 云

公卿補任 仁安三年二月十九日 云

○安德天皇踐祚 年三歲

關白内大臣藤原基通攝政

玉海 治承四年二月廿一日 云

公卿補任 治承四年二月廿一日云

後鳥羽天皇踐祚 年四歲

藤原基通攝政

玉海 壽永二年八月廿日壬子天晴此日有立皇事高倉院第四宮御年

四歲母故正三位修理大夫□隆卿女 兼日頗有其沙汰先以高倉院兩宮三四宮被

卜筮立第一宮之處官察共申一吉三宮吉ナリ之由其後女房

有夢想事子細見先日記四又義仲引級坐加賀國之宮見子細如上

此之間更又有御卜今度以四宮立一吉又卜申一吉之由宮吉

ハ即後鳥羽天皇ナリ第二半吉第三不快云云以卜形遣義仲

之處大忿怨申云先次第之立樣甚以不當也依御歲次第者以

加賀宮可立第一也不然者又如初可被為先兄宮事体似矯飾

不思食知故三條宮至孝之條太以遺恨云云然而一昨日重遣

御使僧正俊亮林數徧往還懇申可在御定之由仍其後一決云

云今日之事依為新儀左大臣造進次第就被趣被行云大臣

ハ藤原經于時御名字定云定趣左大臣皇后宮大夫左大辨

等申尊成可被用之由云次有傳國宣命奏下事云不得劍

重踐祚之例希代之珍事也云踐祚次第左大臣造○藤原經

ヲ造リシナリ次第早旦於院職事召陰陽師令勘踐祚日時於便

可勘刻限攝政通ヲイフ以下被參院無文帶大臣以下着殿上

次職事下踐祚日時於大臣仰之今日可有踐祚事者次大臣召

大外記給日時仰云今日可有踐祚事諸司仁召仰才本與次職事奉

院宣可令候傳國宣命之由仰大臣此間職事又奉院宣頭藏人

昇殿人人交名獻攝政次大臣召大内記仰宣命事可載太上法

皇詔旨之旨可仰下之又攝政事可載之先帝不慮脫屣事同可

載幾次内記進宣命草入宮云

增鏡卷一のちとろ 涉門ちとろよりハ十二代ちとろ



公卿補任 壽永二年 云 攝政從一位藤原基通廿四歲、四月十七日上表辭內舍人隨身、八月廿日太上皇詔為攝政、十一月廿一日停攝政

○土御門天皇踐祚 年四歲

關白藤原基通攝政

明月記 建久九年正月十一日 云

公卿補任 建久九年正月十一日 云

○仲恭天皇踐祚 年四歲

左大臣藤原道家攝政

百練鈔 承久三年四月廿日 云

公卿補任 承久三年四月廿日 云

○四條天皇踐祚 年二歲

關白左大臣藤原教實攝政

百練鈔 貞永元年十月四日 云

公卿補任 貞永元年十月四日 云

○後深草天皇踐祚 年四歲

關白左大臣藤原實經攝政

百練鈔 寬元四年正月廿九日 云

公卿補任 寬元四年正月廿九日 云

○後宇多天皇踐祚 年八歲

關白藤原忠家攝政

一代要記 文永十一年正月廿六日 云

公卿補任 文永十一年正月廿六日 云

○後伏見天皇踐祚 年十一歲

關白藤原兼忠攝政

一代要記 永仁六年七月廿二日 云

公卿補任 永仁六年七月廿二日 云

○花園天皇踐祚 年十二歲

關白藤原師教攝政

園大曆 德治三年八月廿六日 云

公卿補任 德治三年八月廿六日 云

○後村上天皇踐祚 年十二歲

太平記卷廿一 延元三年 〇延元三年八月九日ヨリ

吉野主上 〇後醍醐天皇 御不豫、事有ケルガ云 八月十六日丑

刻ニ遂ニ崩御成ニケリ 云 新主 皇 〇後村上天 幼主ニテ御坐

アル上、君崩ジタル後百官冢宰ニ任セ三年政ヲ聞召レ又事

ナレバ、萬機悉ク北畠大納言計トシテ 〇是ノ時ニ當テ親房

攝行セシハ若シ關白經忠洞院左衛門佐實世四條中納言隆

資卿二人專諸事ヲ被執奏

南方紀傳上卷 南方延元四年 〇北朝應應二年 〇當る

云 社八月九日南帝降不豫、因十七日義良親王 〇御年十

村上天皇 踐祚、左大臣經忠公の言、お遷坐、三種北神忌を

授らせ給ふ云 云 南朝より降るる皇白より、師臺仰右大臣

お但ぞ、資信のあふたり、洞院實世四條隆資傳奏なり

○崇光天皇踐祚 年十五歲

皇代曆下卷 崇光院 云 貞和四年十月廿七日 踐祚 十五 云

關白左大臣良基踐祚、日關白如元 〇崇光天皇幼ナリト雖

公卿補任 貞和四年十月廿七日 云

○後小松天皇踐祚 年六歲

前太政大臣藤原良基攝政

皇代曆下卷 永德二年四月十一日 云

公卿補任 永德二年四月十一日 云

○東山天皇踐祚 年十三歲

關白藤原冬經攝政

野史卷十四 貞享四年三月廿一日 云

編年攝關雜錄 貞享四年三月廿一日 云

○中御門天皇踐祚 年九歲

關白藤原家熙攝政

野史卷十五 寶永六年六月廿一日 云

○桃園天皇踐祚 年七歲

關白左大臣藤原道香攝政

野史卷十七 延享四年五月二日 云

○後桃園天皇踐祚 年十三歲

前關白藤原内前攝政

野史卷十九 明和七年十一月廿四日 云

皇太弟幼クシテ皇位ヲ繼承セシ事

○圓融天皇 近衛天皇 順德天皇 龜山天皇

○圓融天皇踐祚 年十一歲

太政大臣藤原實賴攝政

日本紀略 安和二年八月十三日冷泉院天皇逃位讓於天皇

○圓融天皇太子イフ時 于時新帝年十一新主於襲芳舍受禪詔

令太政大臣藤原朝臣イフ實賴輔佐幼主攝行政事如貞信公忠

平イフ故事又立先帝皇イフ冷泉院第一皇子師貞親王為皇太子二

在一條第其時令賞劔璽於内侍參凝華舍○圓融天皇先帝遷

御弘徽殿天皇上表謝之不許 云 十六日先皇出御冷泉院



關白藤原忠通攝政

百練鈔 近衛天皇云 永治元年十二月七日受禪、以關白忠通為攝政、同廿七日即位三歲

○順德天皇踐祚 年十四歲

皇年代略記 順德院諱守成モリナリ云 正治二年四月十五日立太

弟四

百練鈔 佐渡院〇順德天云承元四年十一月廿五日受禪

同日以攝政實家為關白〇順德天皇幼クシテ皇位ヲ繼承ス、而ルノ條見

○龜山天皇踐祚 年十一歲

皇年代略記 龜山院諱恒仁ツネヒト云 正嘉二年戊午八月七日立皇

太弟十六云 正元元年巳未十一月廿六日受禪、十一〇毘沙門堂

踐祚部類鈔 龜山院正元元年十一月廿六日甲午受禪、新主

冷泉富小路殿十七日遷御舊主冷泉万里小路殿十五日自冷泉

陣頭宮内卿仰下日時、次固關召仰三關使、次警固召仰六府、新

主出御書御坐關白候、簀子被奉如元之由、次召藤原朝臣頼憲

被仰藏人事、次又召同人勅授已下事、次關白已下拜舞、勅授并

着陣關白如元之由被仰外記云云  
日嗣皇子幼クシテ皇位ヲ繼承セシ事  
皇太子幼クシテ皇位ヲ繼承スルノ條ト合觀ス

○應神天皇踐祚 年一歲

皇太后氣長足姫尊攝政

仲哀天皇紀 八年九月己卯詔群臣以議討熊襲時有神託皇  
后○神功皇而誨曰天皇何憂熊襲之不服是齋之空國也豈足  
舉兵伐乎愈茲國而有寶國譬如美女之賤有向津國云是謂  
考衾新羅國焉云時神亦託皇后曰云我所見國何謂無國  
以誹謗我言其汝王之如此言而遂不信者汝不得其國唯今皇  
后始之有胎其子皇○應神天有獲焉然天皇猶不信以強擊熊襲  
不得勝而還之

九年春二月丁未天皇忽有痛身而明日崩○仲哀天皇崩而  
九者ハ應神天皇ナリ時ニ天皇未皇紀六年十二月胎中ニ在リ天皇胎  
中ニ在テ皇位ヲ繼承ス體天皇紀六年十二月胎中ニ在リ天皇胎  
夫住吉神初以海表金銀之國高麗百濟新羅任那授記胎中誓  
于朕身云云宣化天皇紀元年五月胎中ニ在リ皇位ヲ繼承  
承セリ天皇紀元年五月胎中ニ在リ皇位ヲ繼承

神功皇后紀首 爰伐新羅之明年春二月皇后領群卿及百寮

移于穴門豐浦宮即收天皇之喪從海路向京云冬十月癸亥

朔甲子群臣尊皇后曰皇太后是年也大歲辛巳即為攝政元年

應神天皇紀首 譽田天皇○應神天云天皇以皇后討新羅

之年歲次庚辰冬十二月生於筑紫之政田云皇太后攝政之

三年立為皇太子○應神天皇ハ神功皇后ノ攝政ノ

モ、然レドモ皇位ヲ繼承セシコトハ前條ニイヘルガ如

神皇正統記上卷 第十五代神功皇后ハ息長宿禰の女聞

化天皇四世の御孫なり、息長是姫宮と申、仲哀たす

皇位と云、仲哀神の教より早く、御孫を造り、齋を

皇位にきざり、七日あり、御孫を造り、齋を

らせ給ふ、此時應神天皇を造り、御孫を造り、齋を

かせ給ふ、此時應神天皇を造り、御孫を造り、齋を

かせ給ふ、此時應神天皇を造り、御孫を造り、齋を

龍をうちしつたぐ人跡ひき云云筑紫の歸り皇子を誕生  
去、鷹神天皇のまゝに神のち跡ひきより  
是を胎中天皇と申し、皇太后授政して辛巳の年  
より天下を治りせ給ふ

皇子幼クシテ皇位ヲ繼承セシ事

皇太子幼クシテ皇位ヲ繼承スルノ條ト合觀ス

ベシ

後光嚴天皇 後圓融天皇 稱光天皇 後光明天皇

靈元天皇

○後光嚴天皇踐祚 年十五歲

皇年代略記 後光嚴院諱彌仁云云曆應元年寅三月二日誕

生觀應三年子八月十七日踐祚五未立親王不立坊今日先立

親王、當日自持明院殿渡土御門殿○後光嚴天皇十五歲ニシ

カズ、前左大臣藤原  
良基萬機ヲ關白ス

○後圓融天皇踐祚 年十四歲

皇年代略記 後圓融院諱緒仁云云延文三年戌十二月十三

日誕生云云應安四年辛三月十五日著袴四同廿一日立親王

同廿三日父帝嚴先退本宮幸忠光卿室町○柳亭被行親王

冠禮并讓國之儀同日親王遷御土御門殿○後圓融天皇十四

藤原攝政ヲ置カズ、左大臣  
藤原良萬機ヲ關白ス

○稱光天皇踐祚 年十二歲

皇年代略記 稱光院諱躬仁云云應永八年辛三月廿九日誕

生、同十八年十一月廿五日立親王同廿八日於清涼殿御元

服云 同十九年八月廿九日受禪十二〇稱光天皇十二歲二 踐祚而シテ攝政ヲ 置カズ、前左大臣藤原 經嗣萬機ヲ關白ス

〇後光明天皇踐祚 年十一歲

前左大臣藤原康道攝政

野史卷十一 後光明天皇諱紹仁ツクナヒト云 寬永十年三月十二日

生稱素鵝宮、十九年十一月為親王、二十年九月冠、十月三日徙

自仙院入内裏踐祚、攝政康道云 並如故、

公卿補任 寬永廿年十月三日云

〇靈元天皇踐祚 年十歲

關白藤原光平攝政

野史卷十三 靈元天皇諱識仁オホヒト云 承應三年五月廿五日生、

稱高貴宮、明曆四年正月為親王、叙二品、寬文二年十二月冠於

前右大臣藤原教輔、第三年正月徙于新内裏、二十六日受禪以

關白光平攝政

公卿補任 寬文三年正月廿六日云

皇女幼クシテ皇位ヲ繼承セシ事

皇太子幼クシテ皇位ヲ繼承スルノ條ト合觀ス

ベレ

〇明正天皇踐祚 年七歲

關白左大臣藤原兼遐攝政

野史卷十 明正天皇諱興子オホキ云 元和九年十二月十九日生、

稱女一宮、寬永六年十月為内親王、十一月八日踐祚云 以關

白左大臣兼遐攝政

公卿補任 寬永六年十一月八日云

十三朝紀聞卷一 寬永六年十月帝〇後水尾天令傳旨於幕

府曰遷位以二女繼之、大將軍〇家光大驚謂自遷都已來久無

女主、至今女宮踐極後世曰外戚之所為也諫之不聽二十九日以皇女興子為內親王云十一月八日帝讓位於興子內親王詔關白兼還攝政

諸王幼クシテ皇位ヲ繼承セシ事

皇太子幼クシテ皇位ヲ繼承スルノ條ト合觀ス

ベシ

後堀河天皇 後花園天皇 光格天皇

○後堀河天皇踐祚 年十歲

前左大臣藤原家實攝政

皇代替下卷 後堀河天皇云建曆二年月日誕生承久三年

七月九日踐祚十一歲未立親王太子十一歲ノ誤前左大臣家實攝政

皇年代略記 後堀河院諱茂仁トコヒト云 建曆二壬三月十八日誕

生承久三年丑七月九日踐祚十依天下擾亂為關東沙汰有立

王及法皇尊號事自持明院殿入御閑院

○後花園天皇踐祚 年十歲

關白藤原持基攝政

皇年代略記 後花園院諱彦仁ヒコヒト後小松院第二皇子實後崇光

貞成親王御子云正長元年七月廿八日踐祚云無立太子拜親

王之儀以太上天皇○後小松天 詔作宣命關白持基公為攝政

今日則被渡劍璽

椿葉記 宮陽方○彦仁王云院皇○後小松天の涉猶子の依

り踐祚ありよらうグ意規みあるるにハ涉歳十歳を

あらせ海ままをめぐたさの世の不思像あらは天下の

口遊みを侍る ○後花園天皇ハ崇光天皇ノ曾孫ニシテ

子トシテ皇位ヲ繼承セシム而シテ立

親王ノ儀ナシ故ヲ以テ此ノ條ニ載ス

○光格天皇踐祚 年九歲

關白藤原尚實攝政

野史卷廿 光格天皇諱兼仁、東山帝曾孫太宰帥典仁親王第六子也。云 明和八年三月十五日生於閑院殿、稱祐宮。云 安永八年十一月後桃園帝大漸、儲位未定、或將有矯命所擁立、迄崩、關白尚實奉遺詔迎天皇、二十五日天皇踐祚、以關白尚實攝政。

皇統御譜 光格天皇 云 安永八年十一月八日御參內、同夜

天皇。○後桃園天皇 御不豫、被為及御大切無御繼體、帥宮息祐宮九歲為御養子、可有踐祚之旨、獻慮御治定、御養母准后維子御方被仰出、勅使鷹司左大臣輔平公御參向于閑院殿、同日儲君宜下、同月廿五日御踐祚、同日御改諱兼仁、同年十二月十二日渡御于倚盧着御錫紵。○光格天皇 八東山天皇ノ曾孫ナリ、而シテ後桃園天皇ノ御養子ト為テ、以テ皇位

ヲ繼承ス、而シテ立親ノ儀ナシ、故テ此ノ條ニ載ス。○因云フ諸王或ハ天子ノ親ノ儀ナシ、故テ此ノ條ニ載ス。○諸王天ノ皇ノ子ト當ニ為リ、養子ト稱ス、而シテハ即チ父子ト為ル。○天ノ皇ナルハ、其ノ昭穆ヲ明瞭ナラシムルベシ、而シテ此ノ父子ト稱ス、而シテハ即チ父子ト為ル。○要ス、委シクハ、人ノ身ヲ明瞭ナラシムルベシ、而シテ此ノ父子ト稱ス、而シテハ即チ父子ト為ル。○

皇位繼承篇卷之四終



